

アサリ着底基質(カキ殻固形生成物)設置試験

福島県水産試験場 相馬支場

1 部門名

水産業—その他—アサリ

2 担当者

佐藤 太津真

3 要旨

本研究ではアサリ稚貝の残存率向上を図るため、カキ殻固形生成物によるアサリ稚貝の保護・成長促進効果を把握し、天然発生稚貝の増殖技術開発に資することを目的に試験を実施した。

- (1) 松川浦内の4地点(棚脇前、川口前、宇多川河口、大洲東)に2014年7月15日、カキ殻固形生成物と砂利を入れた25cm×25cmの野菜ネットをそれぞれ20個ずつ設置した。それらを2015年1月、3月、5月、7月、9月に4袋ずつ回収するとともに、対照区としてそれぞれの設置場所の周辺から25cm×25cm×深さ5cm底質を持ち帰り、各袋に入ったアサリ稚貝の個体数と殻長を測定した。
- (2) アサリの着底は回収された全ての袋で確認されたが、1袋あたりの個数は場所や設置位置により1個体～476個体とかなりばらつきがあった。場所別では棚脇前、宇多川河口、大洲東でカキ殻固形生成物を入れた袋が周辺の底質より稚貝の数が多かったが、川口前では逆の結果となった(図1)。また、成長についても場所により殻長の差があるものの、カキ殻固形生成物の有無による成長差はみられなかった(図2)。
- (3) 以上の結果から、今回の設置試験においてカキ殻固形生成物による明確な効果は確認されなかった。

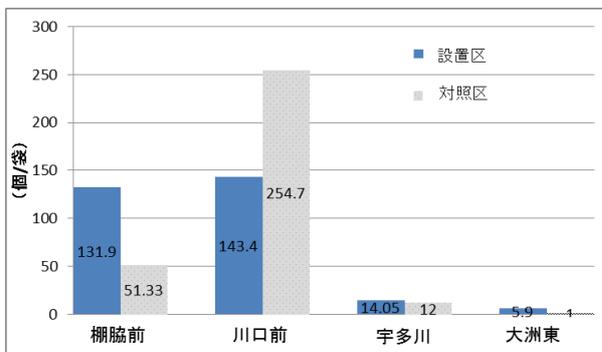


図1 カキ殻固形生成物1袋あたりの着底個数

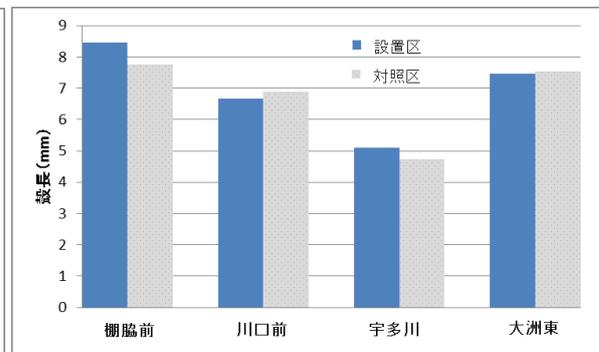


図2 アサリ稚貝の平均殻長

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～27年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成8年度～26年度福島県水産試験場事業概要報告書
- (2) 平成26年度水産庁漁場復旧対策支援事業 漁場生産力向上対策事業課題報告書